

「地域の人を育てるじょんのび高柳づくり」

新潟県高柳町



住民の将来ビジョンが実現した波及効果 9 億円のじょんのび村。



住民を主体に手づくりで始め定着した「高柳町ふるさと開発協議会・町民フォーラム」。



かやぶきの家（荻の家）では、いろいろと地元で採れた四季折々の山野菜を使った料理が好評。

事例の概要

- 「過疎化」という危機感の中で、肩書きを持たない住民が「高柳町ふるさと開発協議会」（昭和 63 年～平成元年）に集い、2 年間で 200 回を超える議論を重ねた。
- 議論の中から、「じょんのび（ゆったり）のびのび」として、芯から気持ちがいい、という意味のお国言葉）と

いうキーワードと「住んでよし、訪れてよし」を基本コンセプトとした地域づくりビジョンが生まれた。

- 町、地域の協働活動により、町内 13 地区がそれぞれの集落振興ビジョンを策定し、実践することにより地域の「住民活動力」が広範に波及した。

評価のポイント

高柳町では、昭和 50 年代から行政が中心となって、基本的な生活施設や農林業の基盤施設などの整備に取り組み、「町の近代化」は進んだものの、高度経済成長期を機に、人口減少が続き、昭和 60 年の国勢調査では人口減少率が 17% に達し、県内ワースト 1 位となった。

様々な事業に取り組んでも町の将来が見えてこないという不安と落胆で混沌とした状況の中、肩書きを持たない住民が「高柳町ふるさと開発協議会」に集い、2 年間で 200 回を超える議論の中で、「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりビジョンが生まれた。

平成 2 年度から住民と行政が協働して取り組んできた「農山村滞在型交流事業」により、地域産業と雇用の方が生まれた。また、平成 6 年度から 3 ヶ年をかけて、町内 13 地区がそれぞれの集落振興ビジョンを策定し、集落の振興方向や町と地域の役割を明確にした。この計画に基づき、各地区ごとに特性を生かし、ひょうたん、炭焼き、棚田、かやぶき等の地域資源を磨き上げ、野菜直売施設、炭焼き小屋、散策路等を整備することにより、地域の住民活動力が全町に拡大した。

また、地域の魅力を高めるため住民が主体となって、純産品づくり、活性化イベント、人材養成事業等に取り組むことにより、地域人材力も高まった。

このように、交流事業に取り組んでいる町民が生き生きとし、訪れた人々に「人柄が良く、人間味が豊かで人情に厚い」等々の評価をいただき、町の知名度やイメージなど、対外的な面で評価が飛躍的に高くなっており、人口の 100 倍を超える交流人口を生み出している。

また、平成 14 年度から、住民と行政が連携・協働して、身近な自治を目指した「住民自治組織の再構築」プロジェクトに取り組んでいる。市町村合併と相まって、住民の主体的な活動により着実に検討が進んでおり、先駆的な取組みとして大いに期待される。

これらの地域づくりの取組みにより、町民に、行動力やアイデアを出す力が身につく、事業の継続に次々と結びついている。

このことにより、住民が自信と誇りを取り戻し町全体が活性化しているところが、誇りある過疎地域のモデルを提供するものであるとして評価された。

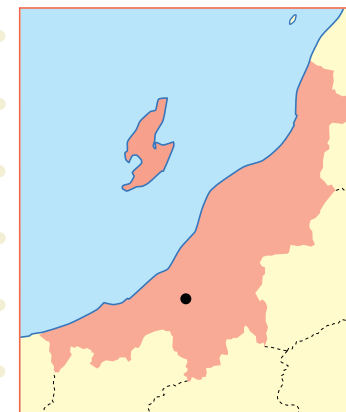


冬の間丹念にひょうたんを研く作業は、共に働く楽しみづくり。週三回が合言葉。



民話から若者が創作。狐火が闇夜に連なる風景はなんとも素朴で幻想的。

新潟県 高柳町



国勢調査人口

昭和35年	昭和45年	平成2年	平成7年	平成12年
9,010	6,254	3,143	2,802	2,502

増減率

H12/S35	H12/S45	H7/H2	H12/H7	高齢者・若年者比率(H12)	
△72.2	△60.0	△10.8	△10.7	高齢者比率	43.5
				若年者比率	9.3

交通のご案内

自動車	北陸自動車柏崎ICから国道252号 経由25分
電車	JR信越線柏崎駅からバス55分
飛行機	新潟空港から自動車110分

団体連絡先

名称	新潟県高柳町
所在地	〒945-1502 新潟県刈羽郡 高柳町大字岡野町1849-1
電話番号	0257-41-2233（総務課）
URL	http://www.town.takayanagi. niigata.jp